

11月19日(日)第二礼拝「天国を攻め奪う者」 マタイ11章12節

今日の本文は、バプテスマのヨハネの日以来、天国は攻め奪われており、激しく攻める者がそれを奪い取っていると言っています。

第一番目、福音によってです。ルカ16:16 律法と預言者(旧約)はヨハネまでであり、それ以降はイエス様の時代(新約)です。神の福音は宣べ伝えられ、誰もかれも無理にでも天国に入ろうとしています。天の御国の福音とは、ヨハネ 3:16「...御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つ」ことです。イエス様の十字架の両側には、2人の強盗がいました。十字架刑は当時最も重く残酷な刑罰でした。2人の強盗はイエス様を嘲笑いました。しかしイエス様は十字架上で罪の赦しの祈りをされました。その福音を聞いた強盗の一人は悔い改め、もう一人の者をたしなめ、「自分達のしたことの報いを受けるのは当たり前だが、この方は悪いことは何もしなかったのだ」と言いました。そして、彼が信仰告白をして「イエス様。あなたの御国の位にお着きになる時には、私を思い出してください。」と言うと、イエス様は「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」と言われました。罪人がイエス様を信じて天国に入ること、これが天国を攻め奪うという意味です。

第二番目、救われた人の悔い改めと天国を攻め奪うことです。救われた後も、意識のあるなしに関わらず私達は罪を犯してしまいます。しかし救われて神の子とされた者達に、神様はイザヤ1:18「さあ、来たれ。論じ合おう。たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。...」と言われます。イザヤ43:25「...わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」神様から選ばれ愛され、神様の心にかなうと称賛されたダビデですが、部下ウリヤの妻と罪の関係を持ってしまい、その罪ゆえに苦しみました。預言者ナタンによる罪の指摘で、ダビデは即座に罪を悔い改めました。彼は罪を赦され、天国の喜びを攻め奪うことができました。私達が隠れた罪を悔い改めることと、自分に罪を犯した人を赦すことで天国(義、喜び、平安)を味わうことができるのです。

第三番目、神様だけを頼る時天国を体験します。ヤコブは兄エサウから長子の権利を奪うような策略家でした。彼はエサウの怒りを買って、叔父ラバンの所に逃げます。しかし、そこで結婚詐欺に遭い、働きの報酬を何度も変えられ、不当な扱いをされながら20年経った頃、夜逃げをしてラバンから殺されそうになりますが、主が介入され守られました。その後エサウが400名連れてやってきました。20年の恨みです。エサウをなだめようと色々画策するヤコブに、神様が現れて彼と相撲をし、彼のもものつがいを打ちました。弱くされたヤコブは群れの先頭に立ち、神様の憐みと助けを求めて、ついに20年の恨みの山を乗り越えました。そして後にイスラエルという名前をもらいます。イザヤ41:14「恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしはあなたを助ける。...」アダムとエバのように神様に勝ち、自分が神になろうとするなら捨てられます。しかし、私達が自分を捨て神様に負けるなら、「あなたは勝った」と言ってくださり勝利することができるのです。

アーメン！